



平成28年4月19日
海上保安庁

問い合わせ先

海洋情報部海洋調査課海洋防災調査室
上席海洋防災調査官 奥村 雅之
海洋防災調査官 小野 智三
電話 03-5500-7126

西之島の火山活動の状況（4月14日観測）

当庁航空機による西之島の火山活動の観測を実施したところ、噴火は認められませんでした。

4月14日に羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により西之島の火山活動の観測を実施しました。

1. 火山活動の状況

昨年11月以来顕著な噴気活動が認められなかった火砕丘にある火口とその周辺から白色の噴気が放出されていました（図1）。

西之島の地表では、新たな溶岩流の流出は認められませんでした。

熱赤外線画像の撮影結果では、火口縁や火砕丘周辺の溶岩原には依然として地表温度の高い領域が点在しており（図2）、前回（3月5日）の観測結果とほとんど変化はありませんでした。

西之島周辺の海岸沿いには、薄い青白色の変色水域が幅200～300mで分布していました（図3）。

今回は噴火が確認できませんでしたが、西之島の火山活動は引き続き継続しており、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（火口から半径0.9カイリ（=約1.5km）の範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけています。

2. 新たに形成された陸地の状況

天候が悪く陸地の正確な形状を計測することはできませんでしたが、目視観測の結果顕著な地形変化は確認できませんでした。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、
「火口全体から白色の噴気が出ていることが確認できた。
また、火砕丘の南側及び東側外斜面の一部にも噴気が認められる。
火口で顕著な噴気活動が認められたのは、昨年 11 月以来である。
今年 1 月の観測以降、熱活動の衰退が著しかったが、今回の噴気活動の再開は新たなマ
グマの上昇が始まった可能性を示唆する。」
とのコメントが得られました。

<参考>

○前回観測（3月5日）時点での新たに形成された陸地の形状（暫定値）

- ・東西：約 1,900m
- ・南北：約 1,900m
- ・面積：約 2.63 平方 km、東京ドームの約 56 倍

（参考）西之島全体の面積（旧西之島を含む）：約 2.64 平方 km
（噴火前の西之島の約 12 倍）

○西之島の面積の比較

| 基準とする事物 | 面積 | 各事物に対する西之島 （3/5時点）の広さ |
|-----------------------|--------------------|--------------------------|
| | (km ²) | |
| 東京ドーム | 0.0468 | 約 56 倍 |
| バチカン市国 [世界で最も小さい国] | 0.44 | 約 6.0 倍 |
| 仁徳天皇陵 | 0.479 | 約 5.5 倍 |
| 東京ディズニーリゾート | 1.003 | 約 2.6 倍 |
| 大阪城公園 | 1.06 | 約 2.5 倍 |
| 南鳥島 [日本最東端] | 1.51 | 約 1.8 倍 |
| モナコ公国 [世界で 2 番目に小さい国] | 2.02 | 約 1.3 倍 |
| 西之島（3/5） | 2.64 | |



図1 火砕丘と火口の様子（4月14日撮影）

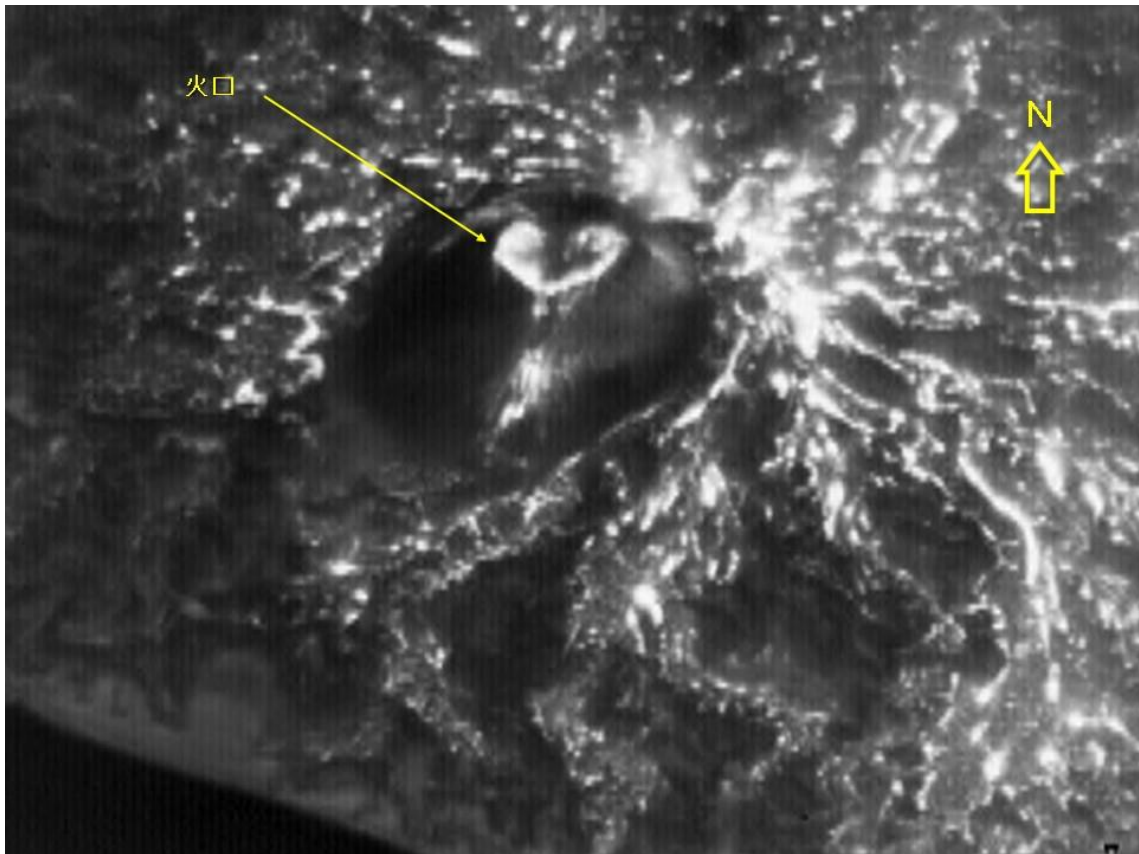


図2 熱赤外線画像による火砕丘及び溶岩原の様子（4月14日撮影）

※ 白い部分が温度の高い領域

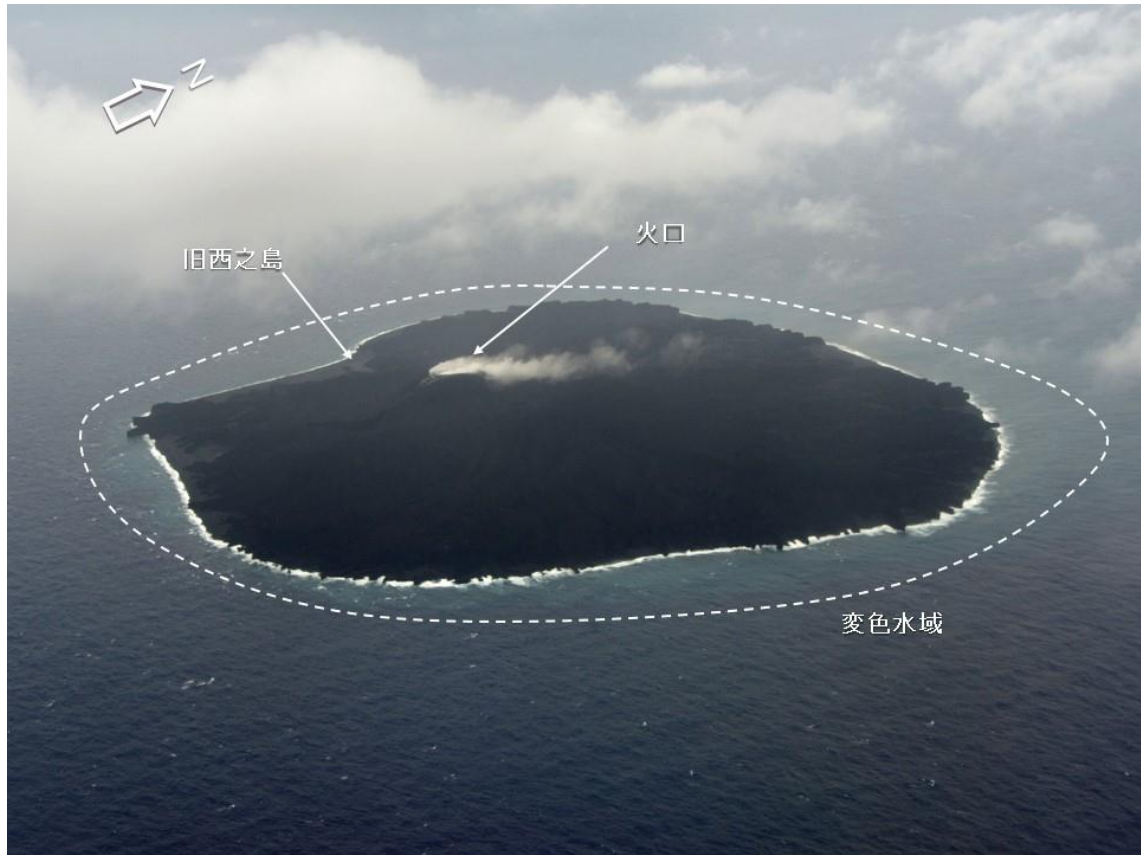


図3 西之島周辺の変色水域の状況（4月14日撮影）